

平成26年度 第2回里地里山保全・活用検討会議

■日時

平成27年2月26日（木）13：00-15：00

■場所

新宿御苑インフォメーションセンター2階 レクチャールーム

■出席委員

進士委員（座長）、石井信夫委員、石井実委員、岩槻委員、金井委員、竹田委員、中越委員、松井委員、森本委員、鷺谷委員

■議題（「生物多様性保全上重要な里地里山（重要里地里山）」の選定に向けた検討）

議題1. 「重要里地里山」選定地案について

議題2. 選定地の公表方法・内容等について

■会議資料

資料-1：「生物多様性保全上重要な里地里山」の選定について

1-1：選定プロセス

1-2：評価の方法

1-3：選定結果（一部資料を除き委員のみ配付）

別添資料：選定地案の集計結果（グラフ）

資料-2：選定結果の公表について

2-1：公表のスケジュール・方法・内容

参考資料：「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトについて

■議事録

【議題1. 「重要里地里山」選定地案について】

【議題2. 選定地の公表方法・内容等について】

(事務局説明)

座長：

- ・地域単位で詳細な検討をいただき、全体として非常にバランスのいい形で選定されたと感じている。
- ・本日は、事務局で整理した選定地について最終確認を行うとともに、重要里地里山の公表に関する方法、内容についても意見を頂戴したい。

委員：

- ・選定地案マップを見ると、東北地方の大事な二つの地域が抜けている。青森、岩手、秋田に囲まれている県境のところはかなり空いている。北東北3県は、林野庁でもネットワークづくりに努力されている地域であるため、関係省庁の施策から少し補足できるのでは。
- ・また、福島県のとくに東部は、中国地方とほとんど同じぐらいの里山の多様性を持っている。大変デリケートな問題だとは思いますが、相馬地域が抜けているというのは、里山の生態系ネットワークという重要な観点から非常に気になる。
- ・全国的にみると、脊梁山脈のほとんどが入っていて、本州・四国・九州はほぼうまく選定できていると感じたが、東北の選定結果はやや気になる。

座長：

- ・さきほどの林野庁での施策を含め、各省庁との調整で不十分なところは、公表までに補足しておいてほしい。それぞれが里山のイメージのところ为重点的なところがあれば、抜けがないようにした方がよい。
- ・なお、福島県の選定結果は、私も気になっていたところである。

委員：

- ・「重要里地里山」について、考え方の確認をしたい。例えば、自然のブナ林など、人為的なものではなく自然状況の中でできている自然環境で、そこに人の生活があつて、文化的な

重要性があるというのはわかるが、今回のように「生物多様性」という観点から選定を行う場合に、人の生活と生物多様性の関わりを示せなければ、選定の観点からはずれて見える。

- ・似たような部分で、高木の照葉樹林も重要なところだが、照葉樹林は薪炭林として使われなくなった林が極相林に遷移しつつある状態である。そのような自然環境について、生物多様性の観点から選んだ里地里山といえるのかどうか。照葉樹林の樹木の利用として林野庁でもいろいろやっており、そういう部分でのつながりがあるのはわかるが、生態系の位置づけとして適切なのかと感じた。
- ・今回の選定地域について、自然環境の成立という部分まで含まれなくても、地域の人々の生活・文化が地域の里地里山にかなり依存している、重要な部分があるということで文化的な側面も入っているということであればわかるが、その辺りを確認したい。
- ・もう一つ、都市近郊の選定地も多いという報告があったが、それは、やはり関わっている人が多く、さまざまなデータがあるために挙がっているという感がある。環境的な部分を見れば、他にも実際にいろいろ動いているところがあって、なぜここは入っていないのかというところが浮かんでくる。
- ・そうしたことから言うと、今回の選定を完成版として公表するのではなく、たたき台として挙げておいて、さらに集めていくといったスタンスで考えたほうがいいたろう。

委員：

- ・さきほどの照葉樹林に関して言えば、生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）では、コア地域となる照葉樹林と、その周辺のバッファ（緩衝地域）、新しい定義としてトランジションゾーン（移行地域）が入っている。移行地域には、里山地区、農地も含まれる場合がほとんどであるので、さきほどの極相林に近い照葉樹林はコア地域だけであって、指定されている範囲はもっと広いため、ユネスコエコパークのエリアと同じ範囲を選定すれば、里地里山の保全活用にもつながるのではないかと。

委員：

- ・今のご意見のように、どの範囲まで含まれて、その考え方がどうかという部分が、リストで見ていると分かりづらい。
- ・照葉樹林の活用という点について、九州南部はほとんど拡大造林でスギ・ヒノキばかりにな

っており、照葉樹林がまともに残っているところは大変貴重。それをどう生活の中で維持していくのかという部分では重要。ただ、本当に生物多様性が人の生活の中で向上している状況にあるのかどうか、この評価をどうするのかは難しい。また、今回は文化的な側面は、評価の観点にはしないということになっているため、それをどうするのか。

- ・里地里山の要素として、景観、生活・文化は重要な点であるため、「重要里地里山」として公表されたときには、一般的にそうしたものも含まれていると思われるだろう。
- ・今回の選定は、生物多様性の観点からだけ選んだものであるということ、どう理解してもらうか、またこれから先、景観、文化・生活といった面をどう補完していくのかについて、事務局として考えを詰めた上で公表したほうが良いと感じた。

委員：

- ・さきほどの照葉樹林に関する情報だが、現地の方たちは里山を意識して地域づくりをされており、有機農業も盛んで、伝統的な産業を現代に生かすような取組なども活発に行われている。照葉樹林から流れてくる川に生息するホタルにも着目し、エコツアーなどの努力をされているという地域であるため、選定にはふさわしいのではないかと。
- ・また、ブナというと薪炭など関係ないと思われるかもしれないが、ブナ自体も利用されており、そのことによって、やや自然性の高いところもあれば、人の利用によって林層が異なるところがモザイク状に分布しているところもある。
- ・ブナの選定地に関して言えば、川がまだとてもいい状態で残っていて、アユの北限でもある。通常、アユというと水産増殖で放流することがほとんどだが、放流に頼らず北限のアユでまちを発展させようという取組も行われている。また、北海道らしいトレッキングができるフットパスも整備されており、フットパスの全国的な組織の中心的な役割を果たしている。「最も美しい村運動」という国際的な取組があるが、その一環で「日本で最も美しい村」にも加盟している。人と自然が調和して生きていて、そのために生物多様性地域戦略も策定している。そういう方向性を目指しているという点からも、「里山」というキーワードで選定するのにふさわしい地域である。

座長：

- ・「重要」といった場合の視点がいろいろ違うという点は、日本は今、地域のNPOはじめ、とても活発にさまざまな活動を行っていることとも関係する。「美しい村」はヨーロッパの

考え方だが長野県で盛んであるし、フットパスなど、皆がいろんなことをやり始めている。

- ・ただ、それらを全部配慮し出すと切りがないため、指標や3つの基準を設定し、論理的に整理して選定している。合理的に説明できることで落ちているものは追加が必要である。
- ・また、環境省だけでなく、オブザーバーである各省との関係は重要であり、そこもしっかりフォローが必要。どう見ても欠けている地域などがあれば、ぜひ情報提供をいただきたい。

委員：

- ・データ分析による選定地についてだが、対象範囲はメッシュで見ている部分だけでなく、地域の実状に合わせて広めに設定できるよう配慮してほしい。
- ・例えばID418などは、この辺りのビオトープ水田で博士論文を書いた学生がいるが、そうした情報をもとに、かなり広域に見る必要があると思う。このあたりは、有機栽培の水田も多く、水路は琵琶湖とのつながりを意識して魚道を設置し「魚のゆりかご水田プロジェクト」に取り組んでいるような地域である。

委員：

- ・私も福島県の東部については気になっている。昔、この辺を調査したことがあるが、とてもいい里山がたくさんあった。
- ・抜けてしまった理由だが、指標で捉えられるようなデータ、あるいは活動があまりないということ、それから、原発事故があった周辺は、今後は今まであったような人為がほぼ期待できないということもあり、やはりここはどうしても抜けてしまうのではないか。
- ・候補地としていわき市があったが、ここも事故が起きる前まではそれなりの里山があった。
- ・今後、この地域の生物多様性をどう維持していくかというときに、何か別の枠組みで考えなくてはいけないようなエリアになるのではないかと感じており、今、議論している枠組みではなじまないのかなと思った。

事務局：

- ・いわき市の候補地については、情報が集まらずに選定地から外れてしまった状況である。

委員：

- ・情報を待っていては、いつまでたっても選定が終わらないため、今の段階の情報でまとめて

出すということで腹をくくったほうがいい。

- ・一方で、おそらく情報が抜けているなという地域はたくさんあり、特に、基準に全く該当しないところも、情報はどこかにあって、それを今は把握できていないのだろうなというところがまだ随分あるだろう。
- ・全国横並びで見たときに、ここが入っていて、ここがないのはおかしいというような反応は多数出てくると思うため、公表に向けては、どこかで区切りをつけたほうがいい。
- ・そのときに、今回は生物多様性という観点から選んでいるということで、景観や文化の側面が含まれていないという部分もしっかり出しておくべき。そうした面から選定されたものが対象に入っていると、一般的にはすごく混乱してしまう。

環境省：

- ・本年度の選定地リストは、いわば情報があるところだけをリスト化したものであり、選ばれていないからといって情報がない、対象ではないということを示したものではないと明確にした上で公表する必要があると思っている。また、今後さらなる情報が集まってきたときにどうするか、そこは継続的に考えていかなければいけないだろう。
- ・このたびの選定は、生物多様性保全上重要なところということで選んだものだが、結果として、そういう地域は景観がいいところであったり、文化的な面からも重要性が高い場所が多く入ってくる。ただしそれは、里地里山を扱う以上は当然のことではないかと思っている。
- ・今後、文化的な観点、景観的な観点からの重要性を環境省としてどうするかといったご指摘についてだが、今回は生物多様性保全上重要ということで環境省主導で選んできたが、それ以外の観点を含めた形でどうしていくかについては、関係省庁との調整も必要であり、一緒に考えていかなければならないと感じている。

座長：

- ・ただ、景観や文化の面が含まれていないという言い方はちょっと違うと思う。環境省でリードしているため、生物多様性が規範になっている、そういう観点が強く出たということではないか。選定地リストに入っていないものは意味がないとか、里山ではないとは言っていない。ベースとして全国のおよそ4割は里地里山であるということがあって、今回は重要里地里山として、そのうち国土レベルで重要と思われるものを選んだ。その重要という

のはいろんな観点があるが、環境省としては生物多様性をメインにした、そういうことではないか。

- また、選定地とDID地区との重なりを見ているのは、そこでの保全活動まで視野に入れているわけで、保全活動を後押しするのは、やはりそのトータルな景観であったり、文化性であったりが必ずあるわけで、そこにフォーカスを絞っていないとはいっても、それを無視しましたという言い方ではないと思う。

委員：

- 例えば、棚田が良い例だが、純粹に棚田の景観で選んだものについて生物多様性が高いかという点と必ずしもそうでもない。しかし、景観的には非常に重要な里地であり、今回のリストの中にも挙がっている。関連データとして、「にほんの里100選」も活用しているが、今回の選定地の中に、むしろそういった観点から入っているものも多い感じがした。
- 「重要里地里山」といったときに、選んだ基準、選定理由を念入りに整理しておいて、結果的にそうした景観がいいところが出てくるのは当然だが、選んだ基準は何だったのかということとは明確に分けておかないといけないだろう。
- それから、公表後にどうバックアップできるのかという点。実際に活動している人たちにどう使ってもらえるのか、あるいはどう技術的なサポートができるか、といった部分も重要。
- さらに、国土強靱化計画などについて言えば、ハード面がどんどん進められてしまうと危険なのではと感じており、国土強靱化の施策としての生物多様性保全と、一方で里地的な景観を維持していくという形での技術サポートみたいなものがどうできるか、あるいはいろいろな活動をしている人たちをどうサポートできるかということで、こういう選定の結果を整理しておくことが非常に重要であると思う。
- 実際の保全活動の部分をどうサポートするのか、あるいはどう取り入れるかということについて、少し別の観点から整理しつつ、サポート体制を考えたほうがいいのではないかなと思った。

委員：

- 次年度、自治体に確認をして公表するという点で、この作業は素晴らしいと思っており、そこで今の話が大体解決できるのではないかな。
- 例えば、3つの基準に関してだが、自治体に確認をとる場合、施策を誘導する視点から見る

と、「平成26年度までに何らかの保全施策は自治体が行いましたか、または自治体以外が行っていますか」、「平成27年度以降に自治体が保全施策を講じる予定がありますか、または自治体以外が施策を講じる視点がありますか」と、それが今の基準1、2、3のどれに該当する施策ですかというようなところを、確認されるとよいかなど。

- ただ、確認をしてもらった時に「その基準は違います」と言われて対象から外れてしまうようなことになっては困るため、あくまでも「重要里地里山」として選定された場所であると、設定した基準にどう該当して決まったものかということを示した上で、それとは別に、公表の目的の一つが里地里山の保全活用を全国的に促進させることであるため、促進の方法論として、「これまで」と「今後」という分け方で確認ができるとういと思った。
- また、「自治体が」と言うと、自治体が自らやっていないと言われてもまた困るため、「それ以外」という聞き方をしておくこと。逆に言うと、自治体もそれ以外も特に施策を講じていないにも関わらず選ばれたというようなところは、施策が必要なのだなど、自治体を誘導できるような、アンケートにそういうまい文言が盛り込まれるといい。
- 自治体への聞き取りを通じて、自分のところでは支援していなかったんだな、でも国は選んだんだな、支援する必要があったのかな、そういえばNPOが頑張っているのかな、これは応援してやろうとか、NPOが頑張っている場所が選ばれたのだから平成27年度以降は何かしら支援を、など、何かこうした動きが導き出せることが理想。それを公表して、載っていない人は、該当するようであれば連絡くださいといったことを表示しておいてもいいのでは。
- 「重要里地里山」の選定・公表に対する要望として、選定したからおしまいではなく、どうして選ばれたかということを示すことで、これまでの努力にはご褒美をあげて、今後も継続していかなければ落とされてしまうとか、何かそういう、せっかく選ばれた里地里山が維持されていくような仕組みを盛り込んでほしいと思っている。

環境省：

- 公表に向けて、どこまで掘り下げて聞き取るかについては今後検討するが、既に活動をやられているところについては励みになるように、逆に今回こちらで選んだことに対して、改めてこういう視点で選ばれたのだということを地域に認識してもらい、地域の活性化に役立ててほしいと思っている。

座長：

- ・今回の選定について、選定にかかる組み立て、プロセスは合理的に説明ができており、地域の事情、専門委員の意見も入った形で、一応ベースはできたのではないか。このベースについてはご了解いただけるだろうか。
- ・その上で、足りない部分が幾つか出てきた。各省庁での重点事業で、まさにこの重要里地里山という選定に深く関わるもの、そういうエリアについては、当然それを補強しなければならない。
- ・それから、全国的に見て、さきほどの福島のような事情のところもあるが、抜けている部分はないか、そういう点についても再度見直ししておく必要があるだろう。幾つか例は出たため、それからさらに精査し、合理的に適切だと思われるものに関しては、公表までの間に追加するようにしてほしい。
- ・ローカルな事情に詳しい分野での地域別分科会まで行って詰めてきた案であるため、あとは全体的なバランスを考えながら、追加しなくてはいけないことについては追加するという方針で事務局に作業を進めてもらうこととしたい。

委員：

- ・福島が抜けているというのが気になっていて、1カ所、蝶類のチャマダラセセリの唯一の産地が割と広大に残っている場所がある。これを失うと、恐らく本州からは姿を消してしまうかもしれない。基準・指標で該当しなければ、ぜひ特別枠ということで選定してほしい。

座長：

- ・1点、公表等に向けた自治体への確認について、これは「自治体合意」ではないと思う。説明し、協力を求めるのはいいが、自治体が合意しないとか、逆にあそこもここもとやり出したらロジックが崩れてしまう。
- ・確認は、合意を得るためではなく、今後「重要里地里山」がより目的を達成するためには自治体の協力は不可欠であるため、十分情報提供して、協力いただくためのプロセスとして行うことだと。少なくとも、自治体合意がないと選定できないという言葉は、全国規模で進めているこのプロジェクトでは相応しくない。

委員：

- ・データ分析による候補地について、沖縄県で「里地里山と捉えるか」という指摘もある地域についてだが、ここは天然記念物の馬がいる辺りで、芝型の草原、いわゆる原生的な芝の群落があって自然環境保全地域にもなっている。
- ・里地里山の観点から芝型草原を考えると、もう少し広い範囲をとって、生き物（馬）との関係でエリアを考えるほうがいい

委員：

- ・宮崎県のID695もまさに同じ芝型の草原。ここを入れているのだったら、今のところも入れるべきだろう。

農林水産省：

- ・事務局から本年度、自治体への聞き取りが行われたが、今回聞き取りが行えなかった部局もあると聞いているため、公表に向けて聞き取りを確実に行っていく必要があると思っている。

林野庁：

- ・本年度の選定プロセスにおいて、候補地の段階で地元自治体に確認をいただいたが、その際、農林水産省・林野庁からは、自治体の環境部局だけではなく、農務部局、林務部局の意見も聞き取るようにしてほしいとお願いした。しかしながら、都道府県の林務部局に確認したところ、10県ぐらいにおいて林務部局にこの話が来ていないということだった。今後、最終確認をとる際は、県あるいは市町村において、環境部局だけでなく農林部局の意見も拾うようにしていただきたい。
- ・その際に、先ほど「自治体の合意を得るプロセスではない」というご指摘であったが、現地の事情も様々であろうので、自治体の考えに対し、一定の配慮が必要ではないか。

座長：

- ・関係部局すべてに、ということであれば、各省にもぜひ協力いただきたい。そのうえで、積極的に情報提供していただき、入れられるものは入れようではないかというふうにしたい。
- ・ただ、自治体の都合を聞き入れるようにという発言はちょっと問題。今回の選定が本当に重

要だと思っただけでいるなら、選定地を施策対象にしてもらえるように、むしろ関係省庁として応援するというような話にしてほしい。

- ・今回の選定の議論を関係省庁で相談しながら進めてきたというのは、まさに里地里山というものは各省全部に関係するからである。国家の問題として、何とか里山を支えようとやっているわけで、ナショナルレベルで進めているときには、各省にもぜひ協力、理解いただきたいと思っている。

委員：

- ・一つは里地里山の定義が問題。植林地でも、造林地を活発に使っているところは「里山」といって構わないと思う。林地を上手に回していたら、生物多様性は維持できている。実際にそういう研究論文も出している。植林までの間も、初期の生物の生育地になる。ようは、モザイクになっていればいいわけで、林業が活性化していれば生物多様性は維持できる。
- ・各都道府県に確認を行う際には、元気な造林地、林業をなりわいにしている地域には、新しく生物多様性のために何かしろということではなく、そのままやっていただければいいのだということを伝えればいい。

林野庁：

- ・さきほどの発言の趣旨は、市町村など自治体において、環境部局だけが話を知っているという状況は望ましくないということである。そして、確認の過程において、仮に地域の事情により選定の趣旨にそぐわないといったことが判明した場合には、配慮なり議論が必要ではないかということ。
- ・今回、生物多様性保全の観点から重要里地里山を選ぶのは、森林所有者、土地所有者など地域の方々による営農活動・営林活動に追加的な規制や制約をかけるものではないということが前提となっていると理解しているが、地方自治体の環境部局だけでなく農林部局も含めて調整してほしいということは、当方からも都道府県の林務部局に伝えてある。

座長：

- ・市町村の関係部局すべてにとはいっても、部局によって対応も全く違うことも多く、実際はなかなか難しいだろう。
- ・そういうことから、市町村の各部局に話がいくようなことにしているのが本当はおかしい

わけで、市町村長にもって行くべきである。いきなり国から市町村の環境部局や農政部局に、ではなく、各市町村の中でどの部局に振り分けるかは任せればいい。

自然環境計画課長：

- ・今後、関係自治体への確認を進めるにあたって、各自治体の中でもいろいろと議論があるかもしれないが、仮に、地域として受け入れがたいというような話があっても、本選定の趣旨を丁寧に説明し、理解を得るような努力をしていきたいと思っている。

委員：

- ・「重要里地里山」に選定されたことで、どのようなメリット、デメリットがあるかということとをわかりやすく、自治体が知ることができるということが非常に重要であると思う。

座長：

- ・基礎自治体の部局によっては、保守的で何も進まないようなところもあるのも事実。山も、広葉樹林化を国が打ち出してかなり経つが、相変わらず鬱蒼とした杉の戦後造林に覆われ、何も変わらない。それこそ、やぶ化して今こうした検討が必要な状態になっている。そうした状況を早く何とかしなければ、日本の国土は危ういと思っている。だからこそ、こういうことに取り組んでいるし、私も応援している。
- ・また、選定というと、一般には法律で指定されるように受け取られるが、「重要里地里山」は法律で指定しているわけでもなく、一種の運動論として、国民の総力を挙げて守り伝えていこう、大事なところをみんなで保全し活用していこうという話である。
- ・選定とか指定といわれると、デメリットのほうを想像してしまう。農業、林業のやり方を変えろということのかと、そういうふうを受け取られる。場合によっては変えることも必要だが、今回の選定がデメリットになるような受け取られ方はしないようフォローが必要。
- ・今後の自治体への確認については、問い合わせするというだけにせず、より積極的にこちらの考え方も伝えて、向こうの考え方も吸収するというふうにしたい。地元から拒絶感が出たら、即、配慮して対象から外すということはないで、より積極的にコミュニケーションをとって、選定の意味、あるいは選定によって地域の里地里山をどうフォローして、サポートできるのか。そこの充実もお願いしたい。
- ・地域への施策の充実については、のちほど環境省の案を説明いただくが、各省もぜひそれに

乗って、さらにこれをサポートする新しい提案も出していただきながら、大きな流れをつくっていただきたい。

- ・少なくとも危機感を皆で共有してほしい。そのもとでどうするかということに行くのだと思っている。

委員：

- ・自治体への確認の中で、例えばこれまでの施策、今後の施策に、例えば林野庁の森林・山村の多面的機能発揮対策交付金を使っているとか、林務とか農政部局の取組で保全していれば、その確認欄があるといいのでは。環境部局に問い合わせがあっても、その部局だけでわからない情報をちょっと盛り込んでおけば、林務や農政にも確認が入ると思うので、ぜひとも関連施策を入れていただければ。
- ・文化庁の文化財関係も含め、各省庁の生物多様性と直接結びついている施策メニューがたくさんあると思うため、そうした工夫をお願いできればと思う。

座長：

- ・選定に関わる問題の理解、承認、選定地のプロセスの了解と、それからさらに各省庁や地元確認の結果を反映するという、それから専門委員の視点から何かあれば追加するという、ここまでのところをまず確認いただきたい。
- ・次に、これを今後どうするかということだが、環境省から「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクトについて」という、今後の提案のアイデアも出ている。
- ・そして、本日が最後の委員会となるため、今後の公表までのプロセスと、皆さんのアイデア、あるいは提案など、残りの時間は、その辺についての皆さんの知恵をお借りしたい。

委員：

- ・先ほど、ユネスコエコパークについて話があったが、例えば、福島県の只見川のBiosphere Reserve（生物圏保存地域）も候補に挙がっていたが、今後、選定地が決まると、これらは里山イニシアチブとの関係で国際的にも出ていくことになると思う。
- ・公表時、その説明をどう出すかというときに、Biosphere Reserveは、やはりコアエリアの自然、ネイチャーが入っているということで成り立っているもの。里地里山は、セカンダリー（二次的）な自然を取り上げようとしているもので、それを強調しているものである。

- ・ユネスコエコパークに指定されたということは、コアエリアはナチュラルな状態で、セカンダリーなものではない。それが「重要里地里山」として典型的な里地里山のリストの中に入っていると、日本で言う里地里山というのは何かということで、整合性があるような説明をつけないと、インターナショナルに発信するときには問題が残るのではという心配はある。

委員：

- ・であれば、Biosphere Reserveの移行地域ということを地区名に入れておけばいいのでは。
- ・それから、熊本の小国のように、まちが真ん中であって、周りが杉の造林地のような地域は、選定エリアはドーナツ型でまちを除くというふうな表現にして、エリアを示せばいい。選定地の地区名が、どこを指しているのが確認できるように「何とか地区」や、「何とか周辺」というふうにすれば、国際的にも対応できるのではと思う。

委員：

- ・少なくともBiosphere Reserveのコアエリアになっているところは、従属的に入るのはいいけれども、それがメインにはならないような表現の仕方が必要。

座長：

- ・里山イニシアチブを日本が発信したということの意味だが、両先生が言われたとおり、日本の特色として、ヨーロッパの人工的な都市の緑などとは違って、原生的と人工的の中間に非常にバランスのいい、自然でもあり人為的にも利用させてもらっているという、そういう非常にいいバッファを持ったというのが日本のやり方だった。そこに意味があるのでこうした議論を続けてきた。
- ・また、別添資料の集計グラフだが、事務局からは自然公園の指定と重なっていないからいけないというような説明があったが、それは逆で、重なっていないのが本当。都道府県立自然公園は、里地里山に近いものがむしろ自然公園になっているものもあり、かなりセカンダリーなものがたくさん入っているため重なっていてもいいが、国立公園・国定公園と重なっていないというのは、今回のテーマからみても意味がある。国立・国定公園は、まさに自然性を大事にしているものだが、日本の自然というのは、そんなにウィルダネスじゃないほうが多いため、こういう結果で問題ない。

- それからDIDとの関係で、今後は、都市住民がやはり里地里山をサポートしていくべきという意味で、都市近郊の里地里山の割合も非常にバランスがよいと感じた。
- ただし、集計結果として問題なのは、各里地里山の保全活用状況について「把握していない」という回答が14%あり、その他「不明」も多い。これは地元との関係性をもう一回結び直してフォローアップしていく必要がある。地方と国が、本当のコミュニケーションができていないと思う。国は国でいろいろなことを考えているのに、自治体の職員まで伝わっていないし、政治家は建前で「地方分権だから国が何か言っちゃいけない」と言う。
- そんなことはなくて、やはり国が全国を知って、ナショナルレベルの関心事とか大きなムーブメントを伝えることが大切。太いパイプをつくって、地方自治体にいろいろな情報が行くようにしなくてはならないし、協議するような組織をつくらなくてはいけない。
- 最後に、今後の方向について、環境省の提案のたたき台を説明いただく。

【「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトについて】

(環境省説明)

- これまでの議論で、日本の森里川海の危機的な状況については共通認識であると思うが、今後ますます、都市への人口集中、特に地方での高齢化、人口減少の問題が顕在化し深刻な状況になっていくという危機感を持っている。こうした問題に対応していくには、森里川海からの生態系サービスを持続可能な形で得ていくためには、どうしたらいいのかということが課題である。
- ただ、これは環境省だけが頑張っても無理であって、参考資料のとおり、チーム外のさまざまな関係者、また、現場ですでにいろいろな活動がされているが、それを支えていくような仕組みが大事じゃないかという問題意識である。
- 特に、都市化が進んでいく中で、都市に暮らす特に若い人が、得られている恵みというのは一体どこから来ているのかということが意識されないまま、地方ではそうした恵みの源が十分な管理をされずに消えていくということを止めるために、何とか国民的な運動を盛り上げていきたいということで、昨年12月にこのプロジェクトがスタートした。
- 各省庁でも、こうした取組がなされているが、横の連携は十分ではないと感じている。自然再生法に基づく基本方針の見直しの中で、「小さな自然再生」というキーワードが出てきており、そうした地方、現場レベルでのさまざまな取組を支えていけるような仕組み、生態系サービスの受け手である都市の人々が、出し手である地方での管理を支えていく仕組み

みを考えていけないかと考えているところである。

- ・次年度、5月下旬には公開シンポジウムの開催を予定しており、その結果を踏まえて、6月頃にプロジェクトの中間取りまとめを行い、28年度予算要求などにつなげていきたいと思っている。具体的な内容については、内部でも議論しており、勉強会を通じて外部の方にも協力いただき検討しているところである。

座長：

- ・ありがとうございました。今の説明は話題提供ということで、最後に、委員お一人ずつご意見をいただきたい。

委員：

- ・今回選ばれた選定地一覧の右欄に、昆虫ベストテンのような記載があるが、結果をみると、調査をやっているところが挙がっていて、その中でベストテンとなるため、都市近郊が多くなってしまっている。
- ・昆虫の実際の生息状況から見れば、絶対にそんなはずはない。これはちょっと悩ましいが、昆虫ベストテンだから選ばれたという情報を公表することで、「情報が足りない」ことで選ばれなかったのだと理解されるのではないかと考えている。
- ・今後また新しい観点で選んでいくとしても、一般市民を巻き込んで、たくさんの生物情報を蓄積しておくことが大切ということのアピールできるのではないかと考えている。

委員：

- ・さきほど、環境省からも説明があったが、選ばれなかったから価値がないということではない、ということをごまかにはっきり示すようにしてほしい。
- ・それから、本当はここも重要なんだということが挙がってきたときに、きちっとした手順で情報を補足し拾い上げられるような、そういうプロセスを決めておくことが大切。

委員：

- ・今回の選定によって、完全なリストをつくるということではなく、やはりモデルを提案するということである。その意味では、国立公園、国定公園になっているようなところがあまり入っていないというのは、非常におもしろいと思う。

- ・それから、東京圏や関西圏など都市近郊にたくさん選定地があるということについて、まさに典型的な結果であると思うが、こういう手順でスクリーニングをしたら、こういう結果になったというのは、非常に納得がいく。都市近郊というのはボランティアの活動が非常に活発であるため、こうした結果が出ているのだろうということが一目瞭然である。
- ・そういう形で重要な里地里山ですと示された時に、中山間地帯の里地里山でも、地域の人たちがその価値に気づいて、「実は私たちのところでも」という声があがって活性化につながればいい。公表の仕方も、できるだけそこに導くような形に持って行っていただければというふうに思う。

座長：

- ・自治体ごとの数のバランスについては、自治体からの情報、自治体の努力の違いも表れているのだろう。国が一生懸命トータルに考えていることを、自治体にもう少し情報提供して、自治体と国がコミュニケーションを図り弱いところは強化する、今後はそういう議論になることを望んでいる。

委員：

- ・公表に向けた整理について、選定地以外でも、これまでの検討にあって漏れてしまった地域の情報を消してしまうのはもったいない。問題がなければ、ほかにどんなところが出ていたのか、うちは挙がっていなかったのか、といったことがわかるよう、選定地以外についても、PDFか何かで一覧表が確認できるといいと思ったのが一つ。
- ・それから、公表のときには、どのぐらい知名度を上げられるかという点が大きい。せっかくなので、シンポジウムを開いて公表するとか、そのネタとして、さきほどの森里川海のつながりの部分と合わせて何かを打ち出すこともできる。
- ・情報収集に関しては、自治体を対象としているが、いろいろ情報を持っているのは地域のナチュラリストやNGO、NPOである。そうした主体への働きかけが足りないと思うため、公表後でも、そういったところから情報を集めるということが必要ではと思う。

座長：

- ・緑の国勢調査のように、絶えず情報がアップできるようにしておけばいいのでは。NPOなどが、自分たちで調査した結果などをアップできるとよいだろう。

委員：

- ・公表に関して一つ。国から公表すると、市民には情報が届きづらいため、市の広報に掲載することも一案。その場合、市の広報用の原稿として、重要里地里山について、選定地の紹介文、選定理由、可能であれば、それにプラス「この里山の一番見頃は何月ぐらいなので、何月に観察会をします」といった情報もあるとよい。
- ・選定地の重要里地里山ということで、例えば、都道府県の広報に載せると、県内ではこういう登録があります、その場所はこの日程で見るのがよくて、県内のイベントとして散策ツアーが行われますといった情報を掲載する。市町村の広報では、自分のまちではこういうことをやりますよといった情報を掲載する。それで人が集まり出せば、選定した重要里地里山が市町村の魅力の一つとなり、市民の意識改革になる。さらに、エコツーリズムに発展していったり、外部の人のための宿泊拠点・散策の拠点として活用してもらえるのでは。
- ・そのための最初の誘導、最初の一步は、市の広報への掲載を通じた情報発信であると思う。そうした誘導ができるような、そんな原稿があれば、市町村にもすぐに動いてもらえるのではないかと思った。

委員：

- ・今後自治体に確認をとるときに、こちらが設定している、把握している範囲をあまり限定しないで、もっと広い範囲があるんだということであれば、対象範囲を拡大しても構わないと思う。こちらが知らないだけで、対象地の川の向こう側も同じような里地里山が続いているとか、境界として川をとっているとか、そうした情報が聞けるのだったら聞いて、一つ一つの選定地を大きくする努力をしていただきたい。
- ・もう一つ、公表の際に、選定地とするために足りなかった情報はこういうものだったということを、何かの方法で示していただきたい。日本の場合は、都道府県の県境で、両側の自治体が連携がない場合には、自治体の関心はほとんど県の内側に向いており、反対側はほとんど意識しないため、県境までの間の林地、農地にまで手が届かない。ところが、そうした場所が非常に重要なところで、山脈の両側で自然林はあるけれども、長らく里山経営したことがないようなところもあったり、西日本の場合には、そういうところを越県することによって村同士がもめているところも多い。特に中国地方の場合には「たたら」をやるために木を切るため、越境して切ってしまい、村同士での騒動に発展したようだ。

- ・それが、今は逆に撤退してしまっている状況で、選定地案の地図を見ると大体わかるが、公表するときはその辺りを考慮し、こんなところが抜けていますよ、県境の市町村はいかがですかといったことで、手を挙げる地域を増やせるような呼びかけができればいいと思う。

委員：

- ・朝日新聞の「にほんの里100選」は、ホームページを充実させ、対象地域のエコツーリズムを推進したという成果も出ている。
- ・大切なのは、何が評価されたかということを示すこと。また、コミュニケーションもとても重要で、地域の自治体にはできるだけ定期的なモニタリングや報告のようなものもしてほしい。逆にそれがなくなったら選定が取り消されてしまうといった、そういうことがあってもいいのかなと思った。
- ・環境省でそういうことをまとめて知らせるようにすることが、持続可能な里地里山の保全活用につながっていくのでは。
- ・ちなみに「にほんの里」の場合は、宿の紹介や、車ナビにコードナンバーを入れたらそこへ行けるとか、そういう情報があり、地域のエコツーリズムにもつながったのかなと思う。ただ、にほんの里は勝手に指定したという経緯もあって、指定してもらってよかったという声が98地点ぐらい、2カ所ぐらいは来訪者が増えて困ったという声もあった。そういうことがあるため、地域と連携を持って進めていくというのは大事であると感じている。

委員：

- ・「重要里地里山を選んだ」と話すときに、里地里山と尋ねられて明快な答えがなかなかできないのが悩み。
- ・また、我々は自然系の分野専門だが、エコツーリズムや伝統文化など、お金に関わるようなことのデータというのは、何か調査に基づいたものなのか。というのは、動植物であれば環境省のデータがあり、農業・林業に関しては農水省がデータを持っているが、伝統産業といった時にどういうふうになっているか、その辺りのデータ、材料はどこから出ているのかと不思議に思っている。
- ・ただ、データといっても、生物多様性の面から里地里山を保全していこうという場合に、環境省は毎年自然環境の動向調査をやっているというが、78年に我々が始めたときのものに比べると非常に程度が悪い。今みたいに、環境が変わって生物分布もどんどん変わってい

る時期に、一度、本当にきちんと調査をやるべきだと思う。それに基づかなければ、本来こうしたことへのデータの反映はできないのではないかと。

- ・その一方で、両生類に関しては、こういった選定によって個々の種名が出てしまったりすると、他の種以上に乱獲の危険が高いため、発表に関しては慎重を期していただきたい。

委員：

- ・選定地のデータベースの作成とあり、そこに地域の声も若干取り上げられる欄があると理解したが、公表にあたって、地域で何かビジョンを持って活動をしている方々が書き込める部分を増やしていただくといいのではないかと。
- ・いろいろな地域でフィールドワークをしている中で、最近の傾向として、同じような関心を持ったり、共通の経験のある方たちが、地域を超えて、地域間の連携ということが最近随分発展してきたように感じている。選定地が500以上あるため、それ全体で連携というのは難しいかもしれないが、各地域がそれぞれの活動やビジョンをアピールする機会は必要。
- ・例えば、東北地方ではサクラソウサミットというのがとても活発に活動しているとか、コウノトリやトキに関しても全国的になってきていたりして、地域が自発的に連携していくような取組は、とても意義深いものがあると思う。学び合う場でもあるし、地域に閉じこもらずに皆さんが動く機会でもある。
- ・自然再生協議会ぐらいの数だと、環境省が先導して全国的な会議を催したりできると思うが、500もあるので、やはり自発的なものにぜひ期待したいと思っており、その誘い水になるようなデータベースの作り方を工夫していただくといいのではないかと。
- ・また、地域の情報として、画像や動画もあればベスト。もしそれができたら、自発的な地域間の連携などを促す上でかなりプラスになるのではないかと。

座長：

- ・最後に、アドバイザーの省庁からもご発言いただきたい。

文部科学省：

- ・各地域で、いろいろな形で里地里山を保全していける、活動する方たちが一生懸命になれる、そのような情報が提供できるといいのかなと思った。
- ・先ほど、文化財などは指定されると手をつけてはいけなくなるという意識が大きくなるとい

うご意見もあったが、我々は、どちらかという、なるべく手を加えながら守っていくような方向に転換してきたつもりだが、やはり一般的にはまだそういう意識がやっぱりまだあるのだなと思った。

- ・ 今後は、その辺も意識しながら、文化庁としてもいろいろな形で連携できればと考えている。

農林水産省：

- ・ やはり里地里山に関しては、農林水産業の営みという部分が深く関与していると思っており、今回の選定も「重要里地里山の選定は地域活性化のツールとして活用することを目指す」と説明があったとおり、地域の意見をしっかり聞いていくということが、農林水産業との関連において重要と考えている。
- ・ 今後、最終的な公表に向け、当省に関連する事項等があれば、事務局とも情報共有し、最後まで協力して、いろいろな面に関わっていきたいと思っている。

国土交通省：

- ・ 国交省の関係では、都市公園や緑地等が関係すると認識している。重要里地里山の中核的役割を担っているものもあれば、里地里山保全の大きな活動の中で一役を担っているもの、そういった周囲との連携の中で選定されているものもあると思っている。
- ・ 選定地にかかるそういった状況については、また環境省と情報交換させていただきたい。

林野庁：

- ・ 選定地の公表情報の整理に当たり、重要里地里山を地域活性化のツールとして活用してもらえようことを目指すということだが、山村振興も所管している林野庁としては、ありがたいこと。地域で活動されている団体等の活動が評価されるような形で公表してもらえればと思う。
- ・ また、国有林の地主という立場から一つ。先ほどコアエリアとバッファエリア・トランジションエリアの話があったことにも関連するが、国有林の保護林は、例外はあるが、基本的には手をつけずに自然の遷移に任せて保護・保存を図っていくというものであり、里地里山とはやはり趣旨が違うのではと考えている。
- ・ このため、重要里地里山のエリアの大きさによっては保護林の区域が含まれる場合もあるかもしれないが、そうしたときに、誤解を招かないように、保護林の取扱いについて国有林

の立場から注釈をつけさせていただくことも考えたい。

座長：

- ・各省の発言を聞いたうえで提案だが、さきほどの環境省の参考資料で、プロジェクトチームとして省内をイメージしており、チーム外で関係省庁とあるが、やはり里地里山のようなものは、ここに出席いただいている各省庁と密接不可分なため、本来は一体的にやるべき。
- ・今おられるようなコアメンバーが、統合された狙いのもと、それぞれの持ち分を持ちながら、日本の国土にとってセカンダリーな自然がとても大きい意味を持つという観点から、最終的なプロジェクトや予算化は分かれてはいくが、各省庁からそれぞれの立場で里地里山の問題に提案いただいて、それが統合されると、まさに非常にトータルに、バランスのいい国策になる。そういう方向へ持って行ってほしいと思っている。
- ・重要里地里山は生物多様性の観点で選ばれたものですからというのではなくて、生物多様性のところを環境省が重点的にやればいいわけで、ぜひ皆さんで協議していただいて、各省協力して、全省的にやるような、全政府的にやるような、そういう課題として取り組んでほしい。
- ・一方で、地方創生ということも盛んに言われて、地方はそれに期待している。そうした動きと環境の問題がうまくリンクして、国民が行動できるような方向へ向かうといいと、つくづく願っている。
- ・最後に、課長からご挨拶を。

自然環境計画課長：

- ・生物多様性保全上重要な里地里山は、法律に基づいて選んでいるわけではないため、規制がどうということではなく、むしろ地域の方々に里地里山を誇りに思っていて、生物多様性地域戦略の中に組み込んでいただくとか、都市の人あるいは外部の人が、例えば、ボランティアだけではなくて、企業がCSRで参加するなど、いろいろな方法で支えていくというのも、先ほどの森里川海プロジェクトの一つの出口になっていくのかなと思っている。そのための具体的な方策を今後も考えていきたいと思っている。
- ・また、生物多様性保全上の重要な湿地、重要湿地500が10年以上前に選ばれており、こちらの見直しも並行してやっているが、次年度、同じような時期に改訂版が出る予定である。さらに重要海域という話もあり、そうしたものが相まって、今後、特に里地里山で規制的

な措置が難しいところは、このたびの選定をもってインセンティブというか、誘導するよ
うな措置を充実させていくことを考えていきたい。

- ・また公表に向けて、本日のいろいろなご意見を参考に、できるだけ早くまとめて公表したい
と思っている。その際には、個別にまた先生方、そして各省庁にもご相談させていただく
ことがあると思うため、ご協力をよろしくお願いしたい。
- ・本年度もご協力いただき本当にありがとうございました。

座長：

- ・なお、公表に向けた事務局での情報整理を本日の議論を踏まえて進めていただくが、本日の
委員会が最後であるので、選定地の確定については、座長一任ということでした承いただき
たい。
- ・委員には、今後もぜひ応援いただきたいと思うし、各省庁もそれぞれで重要里地里山を上手
く活用して、新しい事業メニューを展開していただき、盛り上がっていければと思う。
- ・本日はありがとうございました。皆さん、ご苦労さまでした。

以上